

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 引野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

引野 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成 2 5 年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成 2 7 年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っており、特に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の得点が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	相手の反応を見て話す問題や、手紙の書き方、古典の作品に関心をもつ問題は特に正答率が高い。	
	努力が必要な問題	文脈に即して、漢字を正しく書く問題の「余ったお金」の無解答率が高い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を上回っており、特に話すこと、聞くことの得点が高い。また、全ての問題で無解答率が全国よりも低い。 ・書くことや記述式の問題にやや課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	表現の工夫について、自分の考えをもつ問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	自分の考えを具体的に書いたり、根拠を明確にして書いたりする問題は正答率が低い。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	関数や資料の活用についての理解が不足しているように思われる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	平面図形に関する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	比例のグラフから変域を求める問題については正答率が低く、無解答率が高い。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	すべての設問において、正答状況が全国と同程度である。 応用問題になると、意欲的に取り組みなくなる傾向にある。	全国平均正答率との比較 同じである
	よくできた問題	整数に関する説明問題はよく出来ている。	
	努力が必要な問題	図形の論証については、苦手意識がうかがえる。	

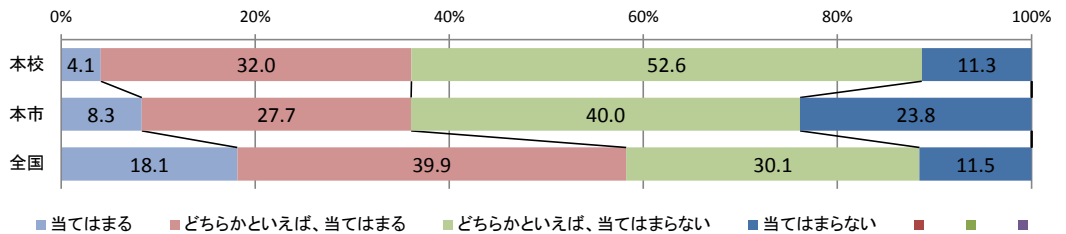
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をわずかに下回ってしまったが、本市平均より上回っている。 ・問題形式では、記述式問題の正答率が全国平均より高い。 ・分野別では、物理・化学・生物分野の正答率はかなり高いが、地学的領域はかなり低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・化学分野の1(2)、1(3)など、実験の結果を分析して答える問題がよくできている。本校では化学実験をよく行うので、その成果が出ていると考えられる。	
	努力が必要な問題	・雲のでき方や気象観測の記録から最も高い湿度を選ぶ問題など、正答率が低い。地学的領域は努力が必要である。教材などを研究して、この分野の正答率を上げることができれば、全国平均をかなり上回ることができる。	

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

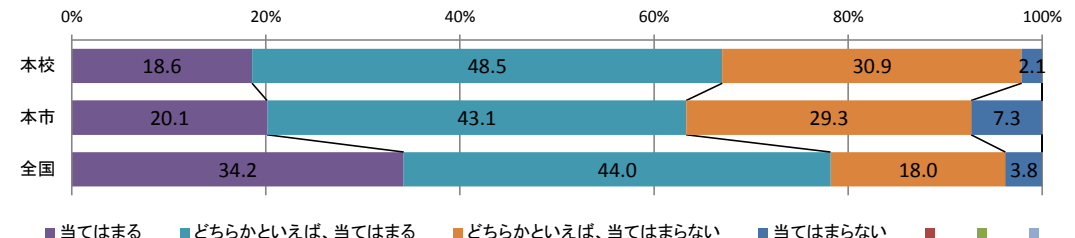
37

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



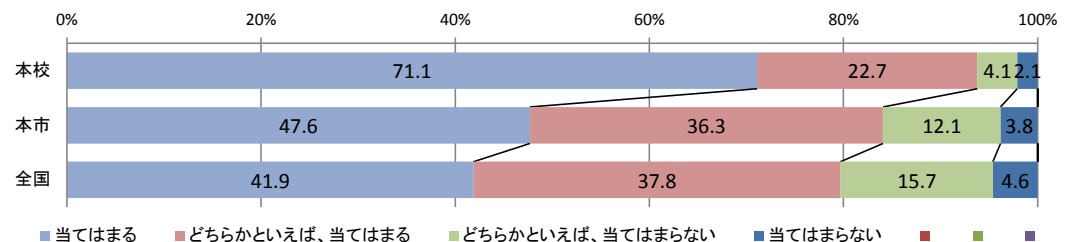
39

授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



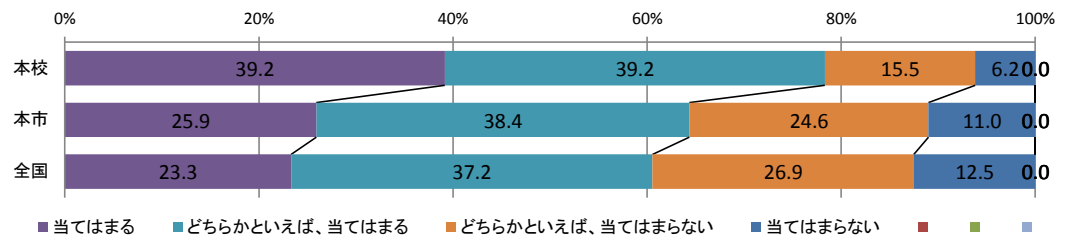
41

授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。



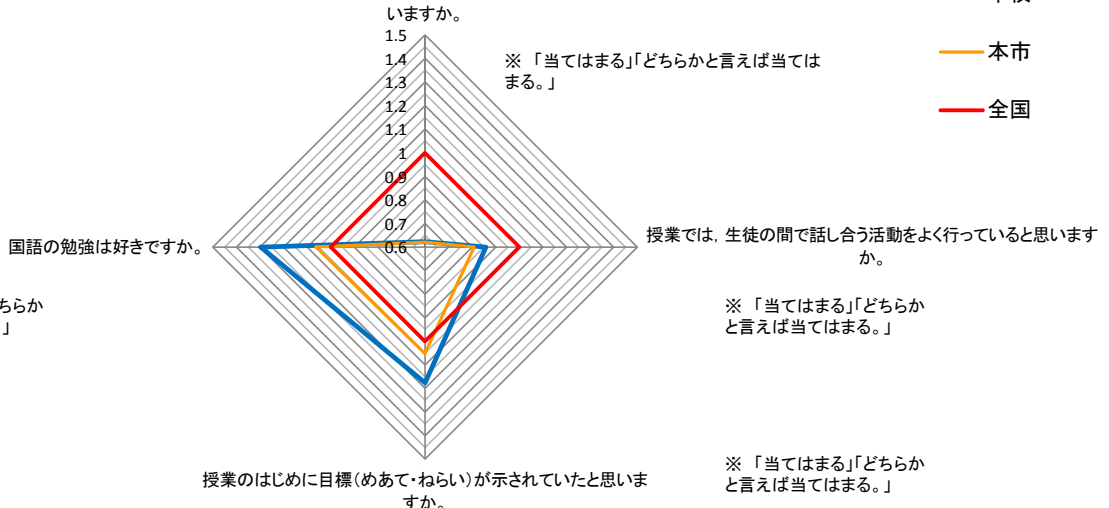
48

国語の勉強は好きですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



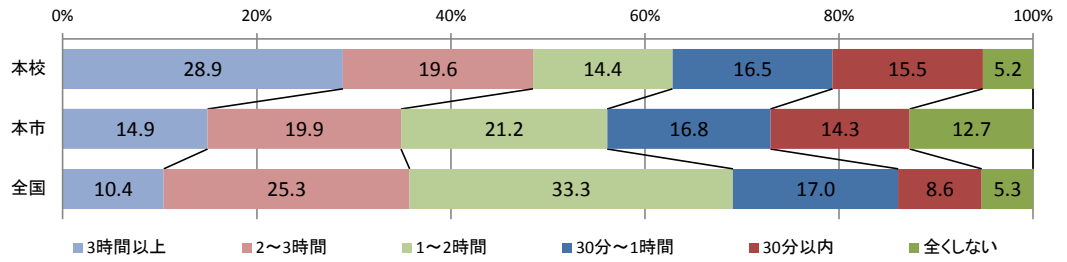
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・国語に関するすべての質問事項に関して、学習意欲・関心が全国平均を上回っており、国語への意識の高さが表れている。3年間を通しての授業の取り組みの成果がうかがえる。
- ・授業では「めあて」と「まとめ」の提示がされていることを93.8%の生徒が認識しており、一時間一時間の授業のねらいやふり返りが定着し、教師におけるわかる授業への取り組みが推進されていることがうかがえる。
- ・総合的な時間を含め、授業の取り組みの中で生徒同士で話し合ったり、自ら課題を見つけ、自主的に調べて発表するような活動が、昨年同様不足している。一斉授業だけでなく、さらなる授業形態の工夫改善が課題である。

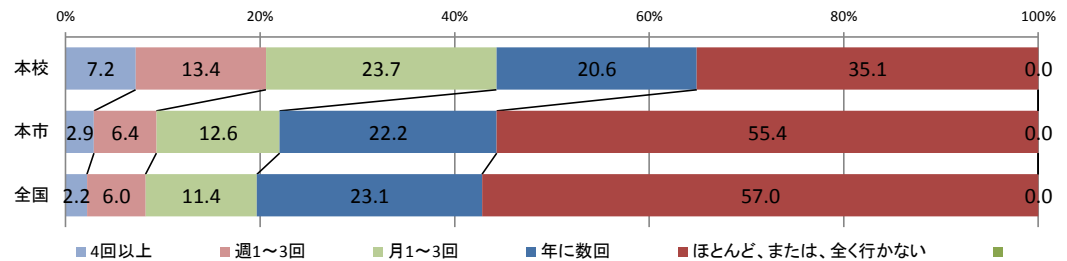
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

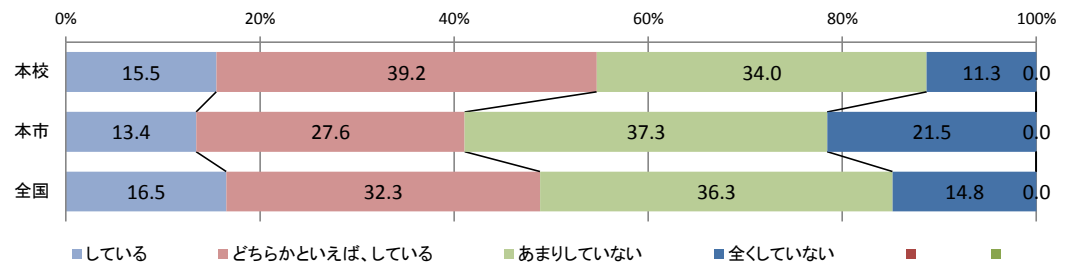
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



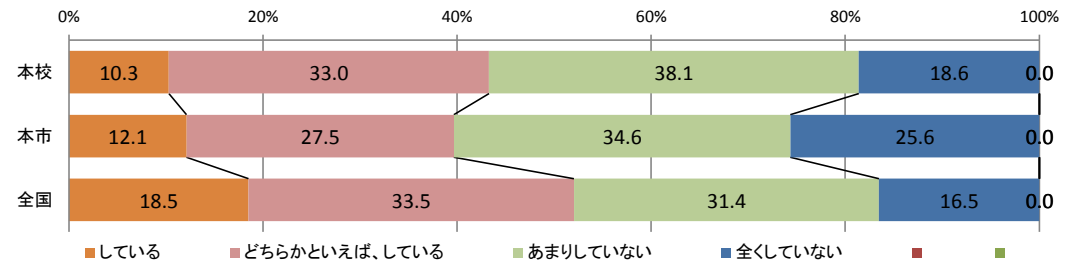
17
屋休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。



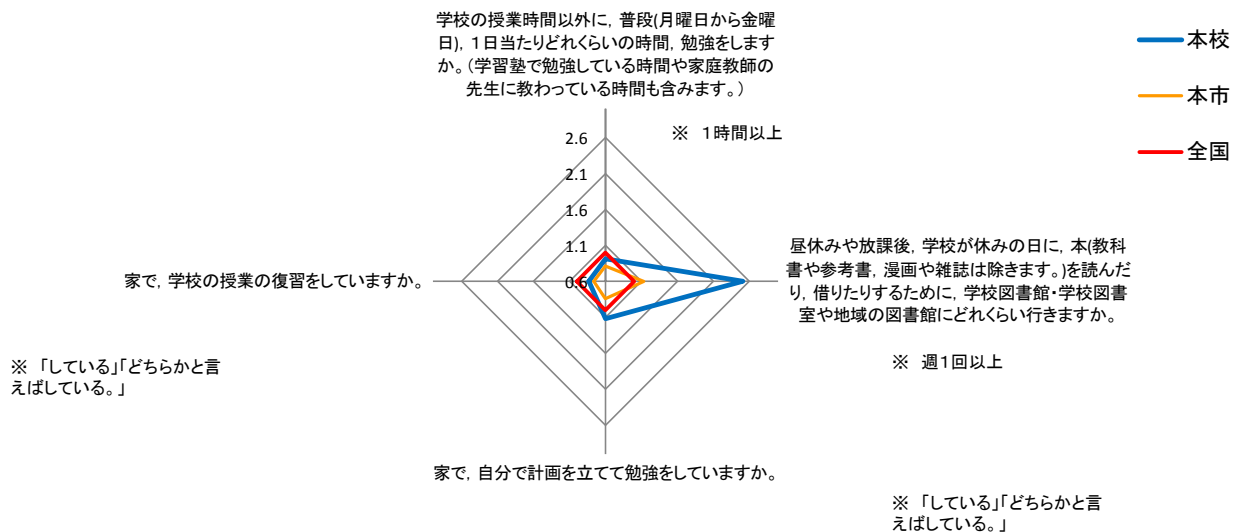
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

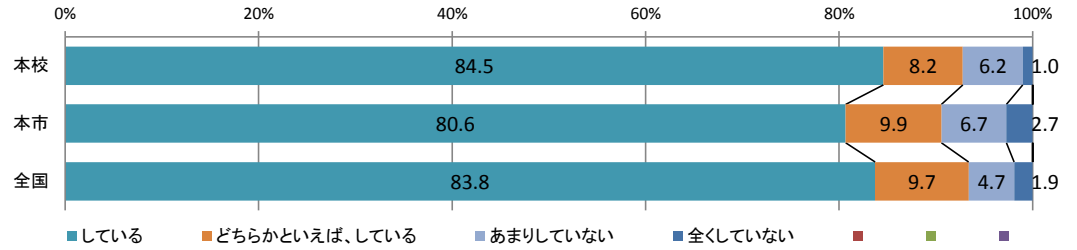


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

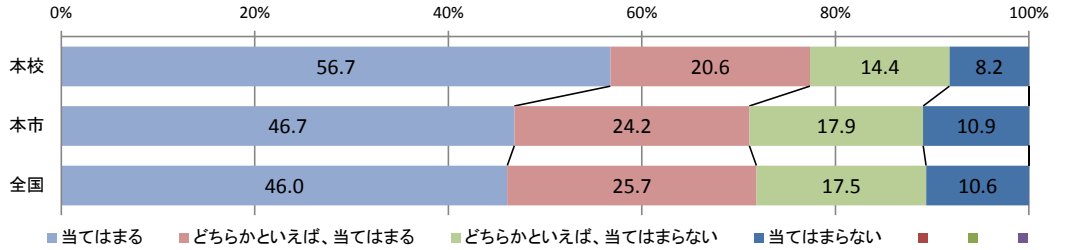
- ・朝読書の取り組みが定着しており、読書をする生徒、図書館を利用する生徒が非常に多く、全国平均を大きく上回っている。
- ・家庭学習の取り組む時間が、全国と比べると2時間以上取り組む生徒が2.8%上回っているが、1時間も満たない生徒の割合が6.3%上回っており、家庭学習をしっかりとやる生徒とそうでない生徒が二極化している。
- ・家庭学習習慣の定着を図るため、数学、理科においてプリントを毎日準備し、授業の復習ができるようにしているため、自分で計画をたてて取り組もうとする生徒も増え、授業の復習をするポイントが昨年度より改善されている。

④ 生活習慣等に関する調査結果

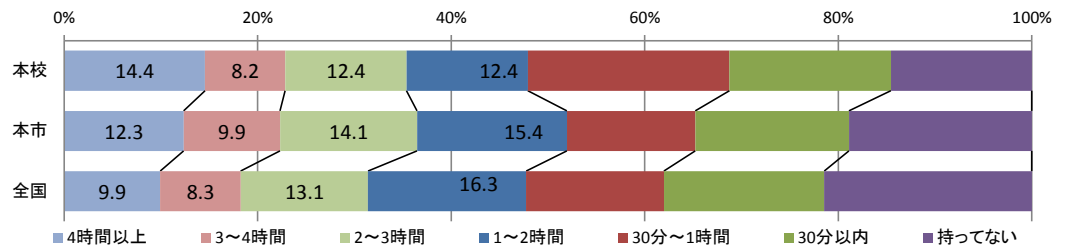
1
朝食を毎日食べていますか。



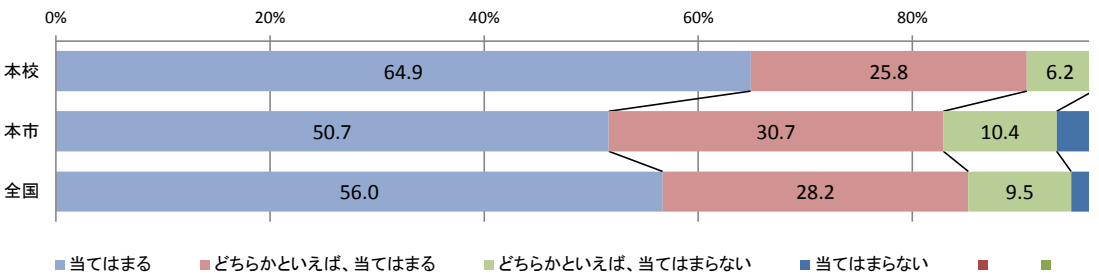
9
将来の夢や目標を持っていますか。



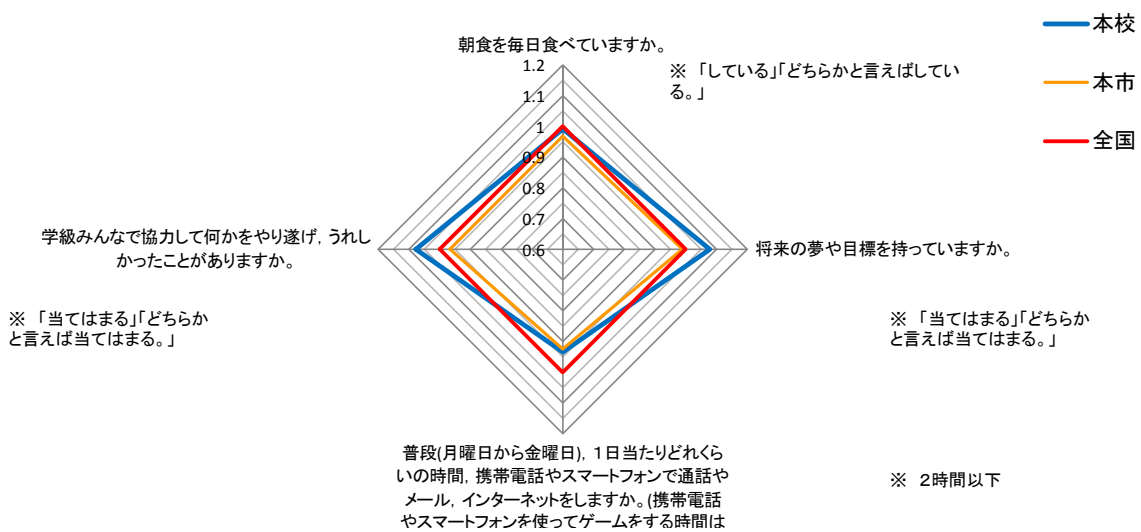
12
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)



26
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

- ・朝食を全く食べない、あまり食べない生徒が今年度は7.2%となり、減少傾向にあるが、いまだ課題である。
- ・将来の夢や目標をもっている生徒が全国より大きく上回っており、各々の夢の実現に向けて、適切な進路指導と目標に繋げる取組を実践していきたい。
- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったと実感している生徒が全国より上回っており、本校における学級活動等の取り組みの充実度がうかがえる。
- ・携帯電話などの使用にかかる時間のうち2時間以上と答えた生徒が全国より上回っており、家庭学習にも影響を及ぼしていると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上に関する共通理解のための諸会議の継続的な実施
 - ・学力向上推進のための指導計画の実施・見直し・改善のための会議(職員会議や教科部会)を定期的を開催する。
 - ・各授業で、話し合い活動や調べ学習、発表等を積極的に取り入れる。
- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・定期考査前の放課後に、質問の時間を設定し、個別指導の機会とする。
 - ・定期考査前に、生徒会活動による予想問題を作成し、学習意欲の向上を図る。
 - ・過去問題、単元別プリント等を入れておく棚を職員室前廊下に設置し、休み時間等における活用を促す。
- 全国学力調査等の過去問題、課題問題の活用
 - ・長期休業日に冊子にして宿題とし、休み明けに見直しを行う。
 - ・受験のための学習に役立てるために、全国学力調査の過去問題を精選し、授業等で活用する。
- WEB問題チャレンジシートの活用
 - ・WEB問題チャレンジシートを個別指導の機会に活用し、基礎的・基本的な学習の徹底を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・学年、学級担任と教科担当の連携を図り、各教師が継続的な宿題を作成・配布する。
 - ・家庭学習マイスター賞への応募を生徒と共に保護者にも伝えて、家庭学習の成果が確認できるようにする。
- 家庭学習を支援する学力向上の取組
 - ・生活ノートや定期考査前の学習計画表を通じて、担任を中心とした家庭学習の支援を行う。
 - ・WEB問題チャレンジシートを含む各教科の家庭学習用プリントを職員室前廊下の棚に準備し、家庭学習を支援する。
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法を学級懇談会や学級だより等で保護者に啓発する。
- 家庭生活習慣に関する取組
 - ・全国学力・学習状況調査から明らかとなった課題や取組等を学校ホームページや学校だよりを通して保護者へ周知する。
 - ・朝食を毎日しっかりとる習慣づくりを継続的に保護者へ啓発する。
 - ・携帯電話・スマートフォンの使用時間の制限を促すとともに、ネットトラブルに関する講習会を実施する。